

の他スタッフの協力のもと、さまざまな口腔外科疾患に対応できる川崎中南部および横浜隣接地域の紹介型2次医療機関として地域医療に貢献していきたいと考えております。

(文責 歯科口腔外科部長 村岡 渡)

(25) 救急総合診療センター・救急科

1. 救急医療体制：開設から現在の体制

2015年3月、「救急センター」(救急初期治療室:ER)が開設されました。ERの直上3階には救急病床として、3西病棟およびHCU12床が設置され、鈴木救急センター所長(2015～2019年)の下、ER診療は救急科、入院診療は総合内科を主軸に救急患者の受け入れ診療業務が開始されました。

2019年4月、多様な救急医療需要に対応するため、名称を「救急総合診療センター」(所長：中島病院長、救急総合診療センター長：田熊)に変更し、市立川崎病院救命救急センターとの連携を図り、救急医による1次救急と2次救急への平日日勤帯の救急医療体制を整備しました。これにより、救急医が多様な傷病の応需が可能となり、各診療科の専門医への良好な連絡体制を構築し、病院全体で取り組む救急医療の実現に向けて一歩踏み出しました。

2020年4月から、救急医による連日準夜帯における救急診療を開始しました。準夜帯は救急需要が高く、この体制変更により、内科だけでなく外科、整形外科、泌尿器科等の多くの傷病に対応できるようになりました。

周辺地域の救急需要(救命救急を除く)の全てに対応し、かつ断らない救急を目指すとともに、地域医療部との連携により、緊急受診患者における受入体制の整備も進めています。

2. 診療スタッフ

1) 医師(救急科専門医、災害コーディネーター等)：

a) スタッフ：田熊清継(救急総合診療センター長)、鈴木貴博(副院長)

b) 非常勤医師：高橋俊介、竹村成秀、権守 智。他 川崎市立川崎病院救急科および慶應義塾大学医学部救急医学等の医療機関からの臨床支援。

c) 救急専攻医(市立川崎病院から派遣)

d) 初期研修医(ローテーション方式)

2) 救急業務嘱託員(救急救命士有資格者等)：成毛 誠、西野一夫、平澤洋一、宮戸潤一、山口範夫。

3) 看護師：3西師長：宗像弘美、HCU・CCU師長：野田浩美、外来師長：山本くみ

3. ER

ERの救急車用口には、感染症用陰圧仕様の重症初療と診療室の2室があり、現在は主として新型コロナウイルス感染症患者への対応に使用しています。その奥には、中等症用初療2床と経過観察6床があります。加えて、救急診察室は3室あります。

4. 時間外の救急体制

1) 医師：①院長代行HCU、②内科(ER担当、病棟担当)、③外科救急、④ケアセンター、⑤救急科(業務時間17時～22時)

- 2) 看護師：①ER看護師、②当直師長
- 3) 放射線科技師
- 4) 検査科技師
- 5) 薬剤師
- 6) 夜間救急受付事務員、警備員

5. 診療実績

救急総合診療センターは、ER診療として救急車搬送患者や突然の傷病で救急受診が必要な方に対応し、院内救急についても初療を行っています。主要スタッフは救急、内科、緩和ケア科、外科、整形外科などの医師、看護師、救急業務嘱託員（救急救命士有資格者等）、放射線技師、臨床検査技師、薬剤師、ER事務職員で、24時間365日の体制で対応しています。救急医療の体制や調整、問題事案は、毎月の救急医療運営委員会や当直検討部会で行われ、部門を越えた討論が行われています。

2022年度のER受診患者総数は8,481名（平日日勤帯4,990名、夜間・休日帯3,491名）で、緊急入院患者数は2,639名（入院率31.1%）でした。救急車の受け入れ状況に関しては、救急搬送件数が2,923名と2021年度の2,392名と比較して増加していました。新型コロナウイルスの蔓延期においても、感染を疑う患者と一般救急患者の診療における両立が図られ、感染対応設備を活用した効果的な診療が行われています。また、2022年度全体の救急車の応需率は59.3%（平日日勤帯78.8%、夜間・休日帯50.7%）でした。2021年度の応需率62.6%（平日日勤帯81.2%、夜間・休日帯53.5%）と比較すると若干低下していますが、応需した救急搬送患者数は531名も増加していますので、救急患者の急激な増加と集中による影響であると考えています。

2022年7月より、川崎市病院協会の下で、中原区での救急当番制による救急搬送患者の輪番診療が始まりました。これは医師の働き方改革と地域完結型医療・効率的な救急医療体制の構築に貢献することを目指した試みです。市立井田病院は毎週火曜日と第2第4土曜日の夜間を担当しています。

（文責 救急総合診療センター長 田熊 清継）

2 放射線診断科・放射線治療科

診療科概要

【診療体制】

放射線部門は、放射線診断科と放射線治療科の2科体制とっています。

放射線診断科の人員体制は、常勤放射線診断専門医1名（放射線診断科部長）、診療放射線技師18名、会計年度職員5名、受付事務委託職員（1階受付1名、地下受付2名）、外来看護師（1階一般撮影部門とCT部門、地下CT部門に各1名）、会計年度職員の医師事務1名となっています。

また、画像の読影体制は、常勤医師1名の他に、非常勤医師としてIVR（読影を含む）担当3名、読影担当5名で行い、翌診療日までのCT・MR・RIの読影を概ね80%以上の迅速読影を行っており、診療科からの種々のコンサルト等にも対応を行っています。

【放射線診断科の検査件数の状況】

新型コロナウイルス感染症による感染拡大の中、市立病院として感染症指定医療機関としての役割

を担いながら地域医療に必要な画像診断等による医療提供体制の確保等行っております。

放射線診断科業務統計(表-1)の総数は、71,266件(前年度65,878件)と前年度比8%増加しております。内訳を見ると、IVRは前年度PCIを停止していた関係上、今年度の件数が反映されており、PCIの件数は大幅増となっております。検査数では前年度比1.27倍と増加しています。CT部門は、造影剤の急速注入(ダイナミック)の件数が前年比7.11倍と大幅増加し、全体でも前年比8%の伸びを示しています。一方、MRIは、前年度比4%減少する結果となりました。また、他施設からの紹介、他施設への紹介に必要な画像取込は前年度比1.11倍、画像出力は1.24倍と紹介・逆紹介患者数の伸びとともに1割から2割程度の増加を示しております。

休日・夜間の検査人数(表-9)では、全体で5,082件(前年度5,018件)と前年度比1.01倍とほぼ横ばいで推移する結果となりました。

【医療安全等への取組み】

医療安全に対する取組みとしては、特に造影腎症予防対策、造影剤副作用歴の確認、依頼内容と撮影内容の適正化(放射線科医と診療放射線科技師の両者での検査前チェック)等に取り組んでいます。

具体的には、検査前3ヶ月の腎機能をチェックし造影剤腎症予防のガイドラインに基づく院内マニュアルを周知し適切な予防策を推進しています。過去の造影剤副作用歴、ビグアナイド系糖尿病薬の休薬期間の確認等については、主治医からのオーダー内容確認に加え、電子カルテ確認、RIS(放射線画像システム)で前回造影検査実施コメント等を活用し検査前に重点を置いて医療安全対策に職員全員で取り組んでいます。

【教育・研修について】

日本放射線技術学会、日本診療放射線技師会、医学物理士会などが主催する各種学会・研修会への積極的な参加を推進しました。また2015年度以降初期研修医2年目で放射線科を選択された先生方への指導も実施しています。

【機器整備状況、課題点】

CT装置は地下CTと1階CTの2台体制であり、フロアが分断された状態での稼働開始のため、安全管理に配慮し、迅速な画像処理、CT造影業務の課題、常勤医師による緊急検査の画像確認の方法など工夫しながら対応を行いました。また、1階CTの造影業務は昨年度と同様に外来や病棟医師の協力を得て行いました。今年度IVR装置の更新予定でしたが、次年度へずれ込んでいます。

今後の課題としては、設置から10年以上を経過する高額機器の保守契約期間などを含めた計画的な機器更新の検討が挙げられます。また、2台のCT運用改善やマニュアル整備、将来的には安全配慮と放射線診断専門医が緊急画像確認を速やかにできるよう1階で2台のCT運用ならびに効率的な読影体制の整備が望まれます。また、各種撮影技術や画像処理技術の向上、当直帯も含めたCTやMRの安全な検査体制の構築を推進していくことが求められます。

(文責 放射線診断科部長 山下 三代子)

【放射線治療科】

放射線治療科の診療体制は、常勤医師1名及び非常勤医師2名(半日ずつ)により初診から治療後

のフォローアップ外来を含め、きめ細かな診療を行っております。前年度、リニアック装置の更新により5月から11月中旬まで中断していたこともあり件数は189件でしたが、今年度の件数は446件と前年度比2.36倍の増加を示しています。他院からの紹介患者も増加し、22施設からの放射線治療の依頼にも対応しています。

当院の放射線治療の特徴として、治療室内に全身を撮影できる診断用のCTを併設し、高精度の放射線治療に対応したシステムを採用しています。これに関連する定位放射線治療の件数は、37件と前年度の7件から5.29倍の伸びを示しています。また、画像誘導放射線治療も3,583件と前年度の1,025件から3.50倍増加しております。

当院では、MRIによるDWIBS画像を治療計画時に融合させ、治療計画への応用と治療効果判定に使用しており、他治療が困難な患者を対象としたKORTUC療法など特色ある診療を実践しております。

(文責 病院長補佐 福原 昇)

表-1 放射線診断科業務統計

		患者人数				
		外来	入院	合計	前年比	
X線	単純撮影	23,986	5,744	29,730	1.01	
	パノラマ撮影	689	172	861	1.10	
	デンタル撮影	297	30	327	2.04	
	ポータブル撮影	862	7,284	8,146	0.95	
	手術室透視	16	263	279	1.22	
	造影撮影	340	626	966	1.01	
	内視鏡検査	27	169	196	0.89	
	小計	26,217	14,288	40,505	1.00	
CT	単純検査	8,662	1,334	9,996	1.10	
	造影検査	127	28	155	1.12	
	単純+造影検査	1,827	337	2,164	0.90	
	ダイナミック	299	78	377	7.11	
	小計	10,915	1,777	12,692	1.09	
MR	単純検査	2,219	425	2,644	0.94	
	造影検査	130	33	163	1.09	
	単純+造影検査	230	37	267	1.02	
	小計	2,579	495	3,074	0.96	
血管	心臓系	心カテ（診断） 左心・右心・両心	0	88	88	1.21
		PCI	0	32	32	32.00
		ペースメーカー （一時・交換・移植）	1	33	34	0.61
	一般血管	診断	0	6	6	1.67
		IVR	0	38	38	1.19
	非血管系	診断	0	7	7	7.00
		治療	0	5	5	3.00
	小計	1	209	210	1.27	
骨塩定量検査		663	33	696	0.85	
核医学検査		461	121	582	1.01	
結石破砕		8	0	8	0.23	
画像	画像取込	2,388	342	2,730	1.11	
	画像出力	2,731	2,017	4,748	1.24	
放射線治療	体外照射	4,679	866	5,545	2.14	
	治療計画	361	85	446	2.36	
	小計	5,040	951	5,991	2.16	
合計		51,003	20,233	71,236	1.08	

表-2 依頼科別検査人数

	単純撮影	デンタル	ポータブル	造影検査	内視鏡	C T	M R	血管撮影	核医学	骨塩定量	画像出力	画像取込	合計
内科	3,286	0	2,540	34	29	2,171	390	14	16	33	606	191	9,310
腎臓内科	890	0	865	9	2	449	79	6	4	13	136	46	2,499
糖尿病内科	397	0	327	0	0	217	63	0	1	16	69	29	1,119
血液内科	79	0	0	0	0	54	13	0	0	1	20	31	198
呼吸器内科	5,311	0	1,449	6	78	1,607	204	0	13	9	787	414	9,878
循環器内科	995	0	483	0	0	239	60	147	139	1	276	62	2,402
脳神経内科	3	0	0	0	0	11	84	0	19	3	14	16	150
精神科	3	0	0	0	0	2	19	0	1	0	44	3	72
外科	1,468	0	607	103	55	1,017	87	15	0	0	39	132	3,523
呼吸器外科	267	0	0	0	0	173	17	0	1	0	27	15	500
脳神経外科	29	0	0	0	0	182	159	0	0	0	20	43	433
整形外科	4,661	0	557	2	0	540	417	0	0	286	322	343	7,128
形成外科	1	0	0	0	0	6	1	0	0	0	2	1	11
泌尿器科	1,645	0	331	341	0	1,175	255	1	118	0	109	179	4,154
婦人科	43	0	0	0	0	34	70	1	0	31	34	21	234
耳鼻科	55	0	1	181	0	169	35	0	2	0	29	25	497
放射線科	4	0	8	0	0	7	0	0	0	0	0	4	23
肝臓内科	0	0	0	0	0	0	2	0	0	0	0	0	2
リウマチ科	619	0	415	0	2	278	96	0	2	96	84	65	1,657
乳腺外科	573	0	1	0	0	462	97	0	240	45	31	296	1,745
緩和ケア内科	400	0	305	3	3	504	28	1	1	0	102	359	1,706
皮膚科	212	0	21	0	0	69	42	0	0	1	6	6	357
眼科	97	0	2	0	0	2	14	0	0	135	3	4	257
歯科口腔外科	954	327	7	0	0	447	48	0	18	0	47	64	1,912
健康管理科	2,638	0	0	231	0	116	129	0	0	0	5	0	3,119
麻酔科	7	0	3	0	0	4	0	0	0	0	0	0	14
人間ドック	207	0	0	0	0	26	52	0	0	14	2	0	301
人工透析内科	350	0	5	0	0	24	8	0	0	4	3	1	395
消化器内科	565	0	280	50	26	579	289	22	0	5	153	114	2,083
心臓血管外科	30	0	0	0	0	55	3	0	0	0	6	1	95
腫瘍内科	53	0	10	0	1	164	6	3	0	0	15	33	285
放射線診断科	1	0	0	0	0	80	39	0	6	0	81	12	219
放射線治療科	60	0	1	1	0	631	261	0	1	3	90	190	1,238
救急科	892	0	206	1	0	1,057	7	0	0	0	63	30	2,256
合計	26,795	327	8,424	962	196	12,551	3,074	210	582	696	3,225	2,730	59,772

表-3 X線撮影部門業務集計

	部位	外来		入院		合計			
		件数	照射数	件数	照射数	件数	前年比	照射数	前年比
X線単純	頭部系	40	74	5	8	45	0.60	82	0.55
	頸部系	6	10	0	0	6	0.38	10	0.37
	胸部系	13,082	18,982	2,844	3,814	15,926	1.02	22,796	0.99
	腹部系	3,221	4,922	1,673	2,968	4,894	0.96	7,890	0.91
	椎体系	1,171	3,180	262	563	1,433	1.01	3,743	0.94
	骨盤系	184	203	23	27	207	0.93	230	0.91
	胸郭系	250	590	19	39	269	1.22	629	1.26
	上肢系	1,127	2,737	123	319	1,250	1.01	3,056	1.01
	下肢系	2,078	5,810	794	1,869	2,872	1.06	7,679	1.05
	ドック	206	372	1	2	207	1.08	374	1.10
	検診	2,621	4,349	0	0	2,621	1.03	4,349	1.06
	パノラマ	689	700	172	173	861	1.10	873	1.11
	デンタル	297	297	30	30	327	2.04	327	2.04
	種別合計	24,972	42,226	5,946	9,812	30,918	0.54	52,038	0.51
ポータブル	病棟・外来	836	971	6,716	8,001	7,552	0.93	8,972	0.97
	手術室	26	42	568	915	594	1.11	957	1.16
	外科イメージ	16		263		279	1.22		
	種別合計	878	1,013	7,547	8,916	8,425	0.95	9,929	0.99
造影・透視	消化管	16	323	277	927	293	1.16	1,250	1.18
	肝・胆・膵	6	26	74	433	80	0.93	459	0.98
	泌尿器・婦人科	85	202	261	878	346	1.11	1,080	1.32
	整形外科	1	1	1	1	2	0.08	2	0.08
	特殊検査	2	3	13	24	15	0.39	27	0.19
	検診	230	5,371	0	0	230	0.95	5,371	1.00
	種別合計	340	5,926	626	2,263	966	1.01	8,189	1.04
内視鏡	呼吸器系	6	6	73	74	79	0.93	80	0.92
	消化器系	21	240	96	871	117	0.87	1,111	1.01
	種別合計	27	246	169	945	196	0.89	1,191	1.00

表-4 CT部門業務集計

部位	件数	前年比
頭部	1,777	1.10
体幹	9,943	1.06
骨格系	50	1.43
上肢	77	1.35
下肢	236	1.29
ドック	25	1.00
検診	12	0.20
治療位置決め	410	2.11
KORTUC	108	3.27
血管系	24	0.92
CTガイド	30	0.83
合計	12,692	1.09

表-5 MR部門業務集計

部位	件数	前年比
頭部	874	0.98
頸部	82	1.11
胸部	127	1.25
腹部	617	0.81
骨盤部	332	0.87
脊椎	295	0.77
上肢	75	1.17
下肢	149	0.99
ドック	181	1.69
全身	342	1.14
合計	3074	0.96

表-6 核医学部門業務集計

検査項目	件数	前年比
骨	304	0.89
ガリウム	2	2.00
頭部	16	5.33
頸部	20	0.87
肺	8	0.67
心筋	159	1.19
心プール	0	0.00
腎・副腎	1	1.00
センチネル	72	1.33
腹部	0	0.00
ソマトスタチン	0	0.00
合計	582	1.01

表-7 放射線治療部門統計

表-7(1) 放射線治療業務内訳

		件数	前年比	件数(内訳)	前年比
体外照射	1門照射又は対向2門照射	5,545	2.14	284	5.16
	非対向2門照射又は3門照射			347	1.58
	4門以上の照射、運動照射又は原体照射			4,873	2.12
	定位放射線治療			41	5.86
放射線治療管理料	1門照射又は対向2門照射	409	1.98	32	2.67
	非対向2門照射又は3門照射			45	1.88
	4門以上の照射、運動照射又は原体照射			332	1.94
体外照射門数		24,913	1.97		
治療計画		446	2.36		
照合撮影		3,576	3.41		
体外照射用固定器具		32	1.45		

表-7(2) 放射線治療他医療機関からの紹介患者数

病院名	2022年度	2021年度	2020年度
よこはま乳腺・胃腸クリニック	0	0	14
日本医科大学武蔵小杉病院	51	9	6
菊名記念病院	7	2	1
聖マリアンナ医科大学病院	2	1	0
聖隷横浜病院	0	1	1
昭和大学病院	2	3	0
川崎市立川崎病院	4	2	0
国立がん研究センター	1	2	0
獨協医科大学埼玉医療センター	0	2	0
帝京大学医学部附属溝口病院	0	1	0
山梨県立中央病院	0	1	0
ナチュラルクリニック代々木	0	1	0
総合新川橋病院	0	0	1
町田市民病院	1	0	1
大和市立病院	0	0	1
練馬光が丘病院	0	0	1
クリニックC4	0	0	1
近藤誠がん研究所	0	0	1
小野田医院	0	0	1
神奈川県立がんセンター	1	0	0
国際親善総合病院	1	0	0
東京通信病院	1	0	0
東北大学病院	2	0	0
東京共済病院	1	0	0
北里大学病院	3	0	0
築地神経科クリニック	3	0	0
総合SDMクリニック	4	0	0
国際医療研究センター	1	0	0
順天堂医院	2	0	0
西湖病院	1	0	0
東京大学病院	1	0	0
京浜総合病院	1	0	0
鋼管クリニック	4	0	0
琉球大学	2	0	0
合 計	96	25	29

表-7(3) 放射線治療部位別内訳(件数)

	2022年度	2021年度	2020年度
頭部(脳)	33	5	20
頭部(他)	2	3	6
頸 部	21	12	36
肺・縦隔	51	10	26
食 道	12	9	13
乳 房	61	32	60
肝・胆・膵	11	13	10
骨 盤	61	32	55
脊 椎	38	29	60
上 肢	9	4	5
下 肢	9	9	12
その他	138	31	55
合 計	446	189	358

表-8 主な医療材料使用料

表-8(1) 造影剤

	商品名	規格・容量	包装 単位	使用 数量(箱)
先発	イオパミロン注300シリンジ	61.24% 100mL	5筒	42
先発	イオパミロン注370シリンジ	75.52% 80mL	5筒	25
先発	イオパミロン注370シリンジ	75.52% 100mL	5筒	103
後発	イオパミドール300注シリンジ50mL「F」	61.24% 50mL	5筒	7
後発	イオパミドール300注シリンジ80mL「F」	61.24% 80mL	5筒	52
後発	イオパミドール300注シリンジ100mL「F」	61.24% 100mL	5筒	0
後発	イオパミドール370注シリンジ100mL「F」	75.52% 100mL	5筒	1
後発	イオパミドール370注50mL「F」	75.52% 50mL	5V	17
後発	イオパミドール370注100mL「F」	75.52% 100mL	5V	27
後発	イオプロミド300注シリンジ100mL「BYL」	62.34% 100mL	5筒	66
後発	イオプロミド370注シリンジ100mL「BYL」	76.89% 100mL	5筒	96
後発	イオプロミド300注シリンジ100mL「FRI」	62.34% 100mL	5筒	0
後発	イオプロミド370注シリンジ100mL「FRI」	76.89% 100mL	5筒	0
先発	イオメロン350注シリンジ75mL	71.44% 75mL	5筒	64
後発	イオヘキソール300注50mL「F」	64.71% 50mL	5V	6
後発	イオヘキソール300注100mL「F」	64.71% 100mL	5V	4
先発	オムニパーク300注シリンジ100mL	64.71% 100mL	5本	44
先発	オムニパーク350注シリンジ100mL	75.49% 100mL	5本	56
先発	ピリスコピン点滴静注50	10.55% 100mL	1V	0
先発	フェリセルツ散20%	600mg	20包	15
先発	ガドピスト静注1.0mol/Lシリンジ7.5mL	60.47% 7.5mL	5筒	33
先発	マグネスコープ静注38%シリンジ10mL	37.695% 10mL	5筒	15
先発	マグネスコープ静注38%シリンジ13mL	37.695% 13mL	5筒	21
先発	マグネスコープ静注38%シリンジ15mL	37.695% 15mL	5筒	9
先発	EOB・プリモビスト注シリンジ	18.143% 10mL	5筒	9
	バリエース発泡顆粒	5g	80本	3
	バリトゲンHD	300g	30本	14
	ガストログラフィン経口・注腸用	100mL	30本	5
	ウログラフィン注60%	60% 20mL	5A	64
	エネスター注腸散	400g	20包	1

表-8(2) 画像出力

種類	枚数
DRY 半切	37
DRY B4	119

表-9 休日・夜間 患者人数

	2022年度	前年比	2021年度	2020年度
休日外来 (8:30~17:00)	898	1.07	836	1,560
休日入院 (8:30~17:00)	893	0.76	1,182	1,833
小計	1,791	0.89	2,018	3,393
夜間外来	2,702	1.14	2,376	3,707
夜間入院	589	0.94	624	570
小計	3,291	1.10	3,000	4,277
合計	5,082	1.01	5,018	7,670

表-8(3) 放射性医薬品

放射性 医薬品名	使用量(本)
99mTc-ECD	0
99mTc-HAS-D	0
99mTc-MDP・HMDP	305
99mTc-MIBI	34
99mTc-MAG	0
99mTc-04-	101
99mTc-TF	42
131I-Adosterol	0
123I-ダットスキャン	12
123I-MIBG	14
123I-BMIPP	108
123I-IMP	4
201Tl-Chloiride	108
67Ga-Citrate	2
111In-オクトレオスキャン	0
Na123I-カプセル	1
合計	731

表-8(4) 放射性医薬品標識化合物

商品名	使用量(本)
テクネMAAキット	8
テクネフチン酸キット	72
テクネピロリン酸キット	3
合計	83

3 検査科・病理診断科

【人事など】

2022年度の検査科は岩田部長、杜部長、品川専任部長の3名部長体制でスタートしました。新たに新任の大石哲平、大野菜摘の2名を迎え、常勤臨床検査技師22名、会計年度任用職員10名、委託職員（洗浄）1名で業務を行いました。2020年12月から続く正職員1名の病休に加え2名の産休・育休もあり代替職員の無いままで人員的に厳しい状況でしたが、職員一丸となり、業務に支障をきたす事態の無いように努めました。

新型コロナ感染患者増大と連動してCOVID-19検査件数も大きく増減しました。患者のみならず職員の濃厚接触や平癒時の就業前の早朝検査、クラスター発生時の職員及び患者の一斉検査に協力し、感染拡大防止に努めました。

20年使用した脳波計が故障し、急遽更新しました。検査科内には100台以上の検査機器があり、他にも老朽化し故障の絶えない検査装置があり、検査不能になり患者様にご迷惑をかけるのではないかと不安を抱えながら検査しているのが現状です。検査室外に設置している超音波検査装置の故障も相次ぎ対応に追われています。

輸血、細胞診、超音波関連で各1演題の学会発表、コロナ関連で1題の論文投稿を行いました。

	2020年度	2021年度	2022年度
検査総件数	1,412,266	1,387,885	1,527,919
外来総件数	1,021,214	1,032,908	1,120,396
入院総件数	391,052	354,977	407,523
外来/総件数比率	0.72	0.74	0.73

【採血室】

引き続き新型コロナウイルス蔓延防止のため感染対策を行いました。採血患者が集中する時間帯には5ブースで対応していますが、人的余裕が無く長時間お待たせしてしまう事もありました。採血件数はシステム変更により集計方法が変更したため前年度との比較ができません。

	2020年度	2021年度	2022年度
年間採血者数（人）	52,880	53,072	46,665
日平均患者数（人）	217.6	219.3	192.8

【検体検査】

COVID-19の影響により2020年度、2021年度は大幅に件数が減少していたが、2022年度はコロナ前（2019年度）の92.2%まで戻ってきました。

外注検査については前年度と比べ件数は106%増加しましたが、7月から入札要件を変更したうえでの委託契約変更により、委託費は前年度よりも13,796,117円（72.8%）と大幅な削減となりました。

院内検査	2020年度	2021年度	2022年度
一般検査	63,672	60,786	65,626
血液学的検査	153,061	147,151	151,234
生化学・免疫学的検査	1,125,322	1,114,492	1,241,042

輸血検査	7,249	6,190	5,788
検体合計	1,349,304	1,328,619	1,463,690

委託検査	2020年度	2021年度	2022年度
件数	31,900	30,078	31,742
金額	65,674,00	50,707,986	36,911,869

【生理検査】

超音波検査士1名が局内異動しました。それに代わり新人1名が配属、また病休職員の補充として科内異動1名となりました。新たに超音波検査に従事できる職員の育成が大きな課題でしたが、1名の産休もあり期待した成果を上げられていないのが現状です。今後は質・量共に臨床の要望に応えられる体制作りに取り組んでいきたいと思っています。院内の超音波検査装置を管理していますが装置やプローブの故障が相次ぎ対応に追われました。

生理検査部門	2020年度	2021年度	2022年度
循環器機能検査	13,228	13,171	13,595
脳・神経機能検査	199	187	172
呼吸機能検査	1,527	1,645	2,138
前庭・聴力機能検査	1,293	1,286	1,165
超音波検査	6,374	7,352	7,266

【細菌検査】

2022年度に入ってもCOVID-19はオミクロン株という極めて感染力の高い変異株が流行し、7月末からの第7波、10月からの第8波を受け、当院のコロナ抗原定量検査の数も大きく伸びました。また、11月より検体検査部門で行っていた自動化学発光酵素免疫測定システム(LUMIPULSE G1200Plus)管理業務を細菌検査部門へ移管し、試薬管理業務・機器管理業務、マニュアル管理業務などを開始させました。

6西病棟が結核病棟として再開したこと、入院制限が緩和されたことにより一般細菌検査・抗酸菌検査は増加し、コロナ関連の検査と併せ細菌検査の検査数は大きく伸びました。

今年度も院内の感染症対策ならびに抗菌薬適正使用に取り組み、他施設との相互ラウンドやKAWASAKI 感染協議会のサーベイランス事業など、地域での感染対策活動にも積極的に参加しました。

1名が感染制御認定臨床微生物検査技師(Infection Control Microbiological Technologist:ICMT)を取得しました。今後も精度保証がなされた検査結果を臨床に提供すべく知識・技術・能力向上に取り組んでいきたいと思っています。

細菌検査部門	2020年度	2021年度	2022年度
一般細菌検査	23,726	210,44	256,77
抗酸菌検査	3,338	3,294	3,846
微生物その他	259	235	197

院内 PCR	279	65	124
コロナ抗原定量	3,694	1,0249	11,664
細菌合計	31,296	34,887	41,508

[病理診断科]

2022 年度では、病理診断科は部長の杜斐林と専任部長の品川俊人の常勤病理医 2 名、病理加算 II の態勢で病理診断業務を遂行しました。細胞検査士 4 名、国際細胞検査士 2 名および細胞診専門医 2 名で非常に充実した細胞診断体制を維持しています。

2022 年度は COVID-19 が引き続き流行し、病理検体数は流行前のレベルには回復していません。病理組織診断は前年度の 102% で微増し、細胞診は前年度の 95.8% で減少し、電子顕微鏡検査は前年度の 109.8% で微増でした。解剖件数は 10 件で前年度よりは増加しています。

CPC は 5 回開催し、呼吸器がんセンターボードと乳腺外科カンファレンスにそれぞれ 4 回参加しました。実習生および初期臨床研修医の研修を再開しました。

病理検査部門	2020 年度	2021 年度	2022 年度
細胞診検査	3,460	3,611	3,460
病理組織検査 依頼数	2,831	2,879	2,944
臓器数	3,303	3,316	3,370
ブロック数	12,451	12,677	12,769
迅速凍結組織検査	130	81	89
電子顕微鏡検査	9	16	11
病理解剖	9	6	10
免疫染色件数(標本枚数)	782(4,663 枚)	539(3,476 枚)	554(3,264 枚)

[輸血製剤管理]

赤血球製剤は昨年度同程度の使用量でした。新鮮凍結血漿製剤、血小板製剤は使用量が減少しました。自己血は僅かに減少となりました。輸血実施人数は 453 人と昨年度よりも増加しており、頻回輸血患者が減少したことで一人当たりの輸血量が減少した結果となりました。

血液製剤使用量(単位数)	2020 年度	2021 年度	2022 年度
赤血球製剤	2,341	1,922	1,924
新鮮凍結血漿	97	132	86
濃厚血小板製剤 (HLA 適合製剤、洗浄製剤含)	5,255	1,820	1,305
自己血 CPDA	103	109	91
輸血単位数合計	7,796	3,993	3,406
輸血実施人数	647 人	430 人	453 人

[夜間・休日検査]

新型コロナウイルス感染症蔓延の影響により、夜間・休日帯の検査総件数は前年度比 105.9% と増加しました。コロナ禍前の 2019 年度と比較すると低い水準ですが、新型コロナウイルス関連検査や感染患者への心電図

など、日当直者には負担の大きい1年となりました。

夜間休日検査	2020年度	2021年度	2022年度
総件数	9,270	9,040	9,572

[チーム医療への参加]

引き続きコロナ検査検体採取や検体搬送を行いました。ICT・NST・糖尿病教育などに積極的に参加しました。また院内全ての心電計・超音波診断装置・血液ガス分析装置の保守管理を行い、機器の安定稼働に努めました。血液ガス分析装置については院内全ての装置を検査室で常時監視しデータ管理及び機器管理を行い、各機器の不具合に迅速対応できるようにしています。

[教育・研修]

各専門分野でレベルアップのため科内研修会・R-CPC・メーカーを招いての勉強会を開催、また各技師が積極的に学会・研修会へ参加しました。

タスク・シフト/シェアに関する厚生労働省の指定講習会について、5名が受講し完了しました。

新型コロナウイルス感染症感染拡大のため中止していた臨地実習を再開し、臨床検査技師実習生4名を受け入れしました。初期研修医クルズスは“検査全般”、“輸血検査”、“病理検査”、“細菌検査”について行いました。

佐藤弘康が臨床検査技師を目指す学生のために、北里大学保健衛生専門学院（新潟）にて講演を行いました。

（文責 検査科担当課長 佐野 剛史）

4 リハビリテーションセンター

今年度も高齢患者様を中心に、急性期から亜急性期のリハビリテーションを実施いたしました。診療科別の依頼は、内科26%、呼吸器内科17%、腎臓内科16%、整形外科13%、緩和ケア内科6%、消化器内科・循環器内科5%、その他12%でした。平均年齢は83.6歳でした。

人事では、昨年度より室長の整形外科部長水谷憲生先生のもと、佐藤恭子先生が兼任を継続し、川崎病院リハビリテーション科部長の阿部玲音先生も継続して兼任され、定期的にアドバイスをいただきました。また、6月末に心理職の福島沙紀が退職し、1月に理学療法士の森口拓哉が入職し、3月末に理学療法士の笹野健が川崎病院へ異動しました。

今年度の疾患別リハビリテーションの実施件数は以下のとおりです。地域包括ケア病棟のリハビリテーションは入院診療料に包括されるため、単位数のみを示しています。

	2022年度	2021年度	2020年度
運動器リハビリ I	5,427	7,228	6,108
脳血管リハビリ II	1,163	1,193	1,250
廃用症候群リハビリ II	9,934	9,318	9,286
呼吸器リハビリ I	12,228	12,191	11,113
がん患者リハビリ	385	694	982

摂食機能療法	1,323	1,177	1,685
地域包括ケア病棟	10,728	11,317	16,471
その他	2,480	1,779	1,942
合計	43,668 単位	44,897 単位	48,837 単位
早期加算 14 日	15,632	14,774	12,732
早期加算 30 日	24,655	24,211	21,443
評価/指導	797	410	421

(文責 リハビリテーションセンター課長補佐 新宮 砂織)

<理学療法>

2022 年度、理学療法の新規処方数は、16711 件（入院 16691 件、外来 20 件）でした。総実施単位数は、23025 単位（入院 22984 単位、外来 41 単位）でした。

総実施単位数の内訳は、脳血管疾患等リハビリテーション 455 単位（1.9%）、廃用症候群リハビリテーション 5134 単位（22.2%）、運動器リハビリテーション 4736 単位（20.5%）、呼吸器リハビリテーション 3496 単位（15.1%）、がん患者リハビリテーション 321 単位（1.3%）、地域包括ケア病棟 6982 単位（30.3%）、その他 1893 単位（8.2%）でした。

(文責 リハビリテーションセンター主任 箭内 健治)

<作業療法>

2022 年度、作業療法の新規処方数は 623 件（入院 596 件、外来 27 件）でした。総実施単位数は 6847 単位（入院 6787 単位、外来 60 単位）となりました。

総実施単位数の内訳は、脳血管疾患等リハビリテーション 254 単位（3.7%）、廃用症候群リハビリテーション 1229 単位（17.9%）、運動器リハビリテーション 665 単位（9.7%）、呼吸器リハビリテーション 1349 単位（19.7%）、がん患者リハビリテーション 11 単位（0.2%）、地域包括ケア病棟 3207 単位（46.8%）、その他 132 単位（1.9%）でした。

(文責 リハビリテーションセンター 大枝 望美)

<言語・摂食機能療法>

2022 年度の新規処方数は 959 件（入院 957 件、外来 2 件）で、内訳は（重複障害を含む）摂食嚥下障害 952 件、高次脳機能障害 14 件、失語症 6 件、構音障害 1 件でした。新規処方数は昨年度に比し 269 件もの増加となりました。摂食嚥下障害の評価として VF（嚥下造影）は 178 件、VE（嚥下内視鏡検査）は 24 件施行しました。今年度も新型コロナウイルス感染症のため、特に飛沫感染の点から VE の実施が制限された状態でした。また、今年度は摂食嚥下支援加算から変更された摂食嚥下機能回復体制加算の算定を行いました。多職種でのカンファレンスを週 1 回行い 359 件の算定を行うことができました。今後とも多職種との連携を強化し協同してリハビリを実施していきたいと考えます。

(文責 リハビリテーションセンター 担当係長 谷内田 綾)

<心理療法>

2022年度の心理療法総実施件数は87件（外来31件、入院56件）でした。

総実施件数の内訳は、心理検査50件（57.5%）、心理面接37件（42.5%）でした。

（文責 リハビリテーションセンター課長補佐 新宮 砂織）

5 内視鏡センター

① 概要

内視鏡ブース6室(X線透視室1室含む)、内視鏡洗浄室、専用患者回復室(8ベッド)、内視鏡前処置専用室、専用患者用ロッカー室、専用受付、専用備品室、などを備えた内視鏡センターにて、上部・下部消化管内視鏡検査・治療は連日のAM/PM、気管支鏡検査・治療は(水)(金)のPM、胆道内視鏡 ERCP 関連検査・治療は(火)(木)のPM、を標準基本スケジュールとして診療にあたっています。

消化管内視鏡・胆道内視鏡は消化器内科医・消化器外科医が協力分担しながら、また外部からの応援も受けて、消化器内科・外科研修医への実践指導も行いながらその実働にあたり、一方、気管支鏡関連はすべて呼吸器内科医が担当しています。

主な消化管内視鏡の担当医表は以下の通りでした。

	(月)	(火)	(水)	(木)	(金)
1	大森 泰	有澤 淑人	高松 正視	大森 泰	大森 泰
2	高松 正視	櫻川 忠之	山本 貴章	有澤 淑人	有澤 淑人
3	下山 友	夏 錦言	井出野 奈緒美	藤村 知賢	松下 玲子
4		市川 理子		市川 理子	

② 診療実績

2022年度の検査実績を下記の表で示します。

検査	外来/入院	件数	総計
上部内視鏡	外来	3444	4141
	入院	696	
下部内視鏡	外来	1035	1456
	入院	421	
ERCP	外来	10	83
	入院	73	
気管支鏡	外来	6	83
	入院	77	
総計			5763

2022年度の主な内視鏡処置・治療実績を示します。

臓器種別	処置・治療	件数
食道・胃・十二指腸	食道 EMR	3
	食道 ESD	33
	食道ステント挿入	0

	EIS	7
	EVL	13
	胃 EMR	2
	胃 ESD	30
	狭窄拡張術	16
	胃瘻造設	29
	胃瘻交換	43
	異物除去	5
	十二指腸ステント挿入	2
	消化管出血止血術	24
大腸	コールドポリペクトミー	88
	大腸 EMR	317
	大腸 ESD	15
	狭窄拡張術	2
	イレウスチューブ挿入	2
	大腸ステント挿入	11
	消化管出血止血術	2
ERCP	EST	46
	EPBD	2
	EPLBD	13
	ERBD	30
	ENBD	8
	胆道結石除去術	35
	胆道ステント挿入	2

③ 反省と展望・課題

Covid19 の影響で減少した実績数は概ね 2021 年度と比べて微増にとどまりました。

いまだその影響が大きかったことが伺えます。

検査機器の老朽化が著しく、安全確実な検査内容とするためにも、臨床医の意欲をあげるためにも古い機器の刷新が強く望まれます。

(文責 内視鏡センター副センター長 有澤 淑人)

6 MEセンター

MEセンターの業務は、血液浄化業務、医療機器管理業務、心臓血管カテーテル業務、ペースメーカー業務、呼吸治療業務、集中治療業務、手術室業務になります。

2022 年度の組織図は、MEセンター長として麻酔科部長中塚医師、副センター長として腎臓内科部長滝本医師、職員として臨床工学技士(常勤6名、会計年度任用職員1名)計7名の体制でした。

2022 年度の主な実績は、血液浄化業務 4193 件(前年比 98.2%)、医療機器管理業務 12938 件(前年比

99.4%)、心臓血管カテーテル業務 120 件(前年比 164.4%)、ペースメーカー業務 458 件(前年比 101.6%)となりました。臨床業務・医療機器管理業務において、前年度を上回る結果と下回る結果でまちまちとなり、昨年同様に新型コロナウイルスの影響を受ける1年となりました。今後もMEセンターは医療機器を通じ貢献してまいります。

(文責 MEセンター担当係長 千葉 真弘)

7 透析センター

2022 年度は、安田格医師が 2022 年 4 月に入職され 9 月に退職されるまで腎臓内科常勤医 4 名、下半期は常勤医 3 名、2023 年 2 月より前田麻実医師が休職されてからは、2 名で診療業務を行うとともに、初期研修医・後期専攻医の指導にあたりました。後期専攻医としては野口遼医師 (D6)、桑野柚太郎医師 (D5)、井田諒医師 (D4) が一年間、腎臓内科の研修を行いました。

看護師については 7 西病棟と一部共同の態勢が継続され、臨床工学技士については常勤 6 名、臨職 1 名の体制で臨みました。

血液透析ベッドは計 20 床(うち個室 3 床)で、午前クールは一般の血液透析を行い、午後クールは新型コロナウイルス感染症患者さんの透析を行いました。センター外では、出張透析機器 1 台により急性血液浄化療法に対応しました。腹膜透析患者様の定期受診や緊急時対応についても、並行して行いました。2022 年度の新規透析導入数は 17 例(うち腹膜透析導入 1 例)でした。リウマチ科や消化器科、神経内科、血液内科、皮膚科、外科といった関係各科とも連携し、エンドトキシン吸着 2 件、腹水濃縮静注 5 件を施行いたしました。透析センターでの延べ血液透析・急性血液浄化療法施行数は 4193 件、腹膜透析患者数は 6 名でした。

前年度に引き続き、腎臓内科病棟と透析センターでのカンファレンスを合同で行うことにより病棟とセンター間での情報共有・連携を充実させ、診療の質の向上を図っています。関連学会・研究会に参加しながら、スタッフのスキルアップを図っています。透析導入が近づく CKD 患者さんに対し、透析センターの看護師を中心に腎代替療法選択指導を行っております。透析患者さんに対して、管理栄養士より定期的な栄養指導も行っております。

チーム医療・地域連携の充実を図り、地域医療に少しでも貢献していければ幸いです。

(文責 腎臓内科部長 滝本 千恵)

8 集中治療室

2022 年度は新型コロナウイルスの影響が落ち着き、全入室患者数 610 人(術後患者 392 人 64%)と絶対数が前年度(485 人)より 26%増加し、総延べ患者数は 1347 人と前年度(1156 人)より 17%の増加となっています。また必要度を満たす割合は 96%(基準は 80%以上)と十分満たしています。平均稼働率は 46%(最低が 5 月の 35%、最高が 2 月の 58%)で、昨年(40%)より増加しました。

5 月からは入院時重症患者対応メディエーターによる患者・患者家族支援が始まり、年間 283 人の支援を行いました。

(文責 麻酔科部長 中塚 逸央)

9 手術部

2022 年度の循環器内科、消化器内科および放射線診療科を含む総手術件数は 2012 件(前年度比

110%)、外科系手術のみの件数は 1829 件（前年度比 106%）、そのうち麻酔科管理件数は 1224 件（前年度比 104%）と症例数が増加しました。

また今年度から消化器内科の肝生検を手術室で行うようになりました。

麻酔科管理枠は毎日 2 列ないし 3 列で、川崎市立川崎病院麻酔科および慶應義塾大学医学部麻酔学教室からの応援医師とともに全身麻酔症例に当たっています。

（文責 麻酔科部長 中塚 逸央）

（1）ロボット手術センター

2022 年度もロボット手術は泌尿器科のみでした。

コロナ禍から徐々に離脱し手術総数も増加しました。ロボット支援下の骨盤臓器脱手術を導入することが出来、順調に症例数を増やしております。今後は腎部分切除の導入が課題となりました。また多数の手術が保健収載となり導入の検討が必要となりました。

ロボット支援下前立腺全摘手術 47 件

ロボット支援下膀胱全摘手術 5 件

ロボット支援下骨盤臓器脱手術 8 件

（文責 ロボット手術センター長 小宮 敦）

10 薬剤部

[人事]

2022 年 4 月 1 日付けで荒井園枝、森敬子が川崎病院へ転出し、小林綾、大山和晃が川崎病院から転入、同日付けで藤田知恵、齊藤光汰、池崎寿子が新規採用されました。

2023 年 3 月 31 日現在の薬剤部スタッフは、常勤薬剤師 19 名、会計年度任用職員 8 名（薬剤師 7 名、一般事務 1 名）です。

[内用・外用調剤業務]

院外処方箋の発行率は、ほぼ前年度並みの 90.5%でした。

院外処方の内容に関する疑義照会は原則として医師が対応していますが、医師が不在の場合には適宜薬剤部にて対応し、内容を電子カルテに記録しています。

新型コロナウイルス感染症の影響はだいぶ緩和され、入院処方増加に転じ、1 日平均枚数は前年度比 14.2%増加となりました。

[注射調剤業務]

注射処方箋の枚数は、入院分が 8,207 枚／月、外来分が 1,469 枚／月でした。内用・外用処方同様、前年度と比較すると月平均枚数で入院は 4.9%、外来は 14.5%増加しています。

注射調剤は、注射薬自動払い出し装置を使用し、翌日分の患者個人別取り揃えを全病棟で実施しています。輸液については、250ml 以下の場合は個人別取り揃えを行い、250ml を超える場合は病棟毎に翌日 1 日分を注射薬カートに乗せて、払出しを行っています。

[製剤業務]

ボスミン液やトリパンプルー等処置に使用する品目の他、アセトアミノフェン坐剤やリボトリール坐剤等、医師からの依頼による特殊製剤を調製しています。

院内製剤については、日本病院薬剤師会の提唱するクラス分類に基づき、新規使用申請時の院内手続きを定めています。

[薬剤管理指導業務]

調剤実績同様、新型コロナウイルス感染症の影響はだいぶ緩和され、入院患者が増加したことにより、2022年度の指導算定件数は、通常算定（325点/件）4,964件（前年度3,442件）、ハイリスク算定（380点/件）1,144件（前年度299件）、合計6,108件（前年度3,741件）で、前年度比63.3%増加となりました。また、退院時薬剤情報管理指導料（90点/件）も1,249件（前年度503件）と前年度比148.3%増加となりました。

今年度は、新人薬剤師が3名増員になったことにより薬剤師常駐病棟を1病棟から4病棟まで拡大し、薬剤管理指導料や退院時薬剤情報管理指導料の算定件数は大幅に増加しました。今後、病棟担当者の育成により常駐病棟をさらに拡大し、これまで以上に患者サービスの充実を図り、病院経営貢献に寄与していきたいと考えています。

[無菌製剤業務]

年間ミキシング件数は、高カロリー輸液1,278件、抗がん剤 外来2,872件、入院423件でした。前年度比で、高カロリー輸液のミキシング件数は24.8%、抗がん剤のミキシング件数は外来14.8%、入院7.1%の増加となりました。

[持参薬鑑別]

2015年4月から、電子カルテと連動した持参薬報告システムにより持参薬鑑別業務を行っています。2022年度の鑑別件数は356件/月（前年度283件/月）と、前年度比25.8%増加となりました。鑑別については、薬の内容のみならず、薬剤師の目を通した様々な情報を電子カルテに反映させることで、持参薬の安全かつ適正使用を支援しています。

[チーム医療への参加]

ICT、AST、緩和ケアチーム、栄養サポートチームなどの専門医療チームや診療科カンファレンスに積極的に参加しています。

[医薬品情報業務]

院内医薬品集は年1回作成しており、2022年度は3月に第33版を発行しました。原則月1回発行している医薬品情報誌には、厚生労働省からの医薬品安全性情報、薬事委員会報告、その他の各種情報を掲載しています。院内で報告された副作用等についても、随時医薬品情報誌に掲載し、職員に周知しています。その他、緊急安全性情報や製薬会社からの緊急を要する製品情報に対しては、即時に対応・周知を行っています。

[医薬品管理業務]

薬剤部にて取り扱っている薬品は、内用薬・注射薬・外用薬・その他薬品（貯蔵品扱い）、検査試薬・血液製剤・アイソトープ（直購入品扱い）です。

院内採用医薬品数は、内用薬 483 品目、注射薬 447 品目、外用薬 188 品目、合計で 1,118 品目です。このうち後発品は内服薬 198 品目、注射薬 143 品目、外用薬 51 品目、合計 392 品目で、採用品目数における後発品の比率は 35.0%です。

[研修]

日進月歩の医療の進歩に遅れを取らないよう、知識・技能の習得に努めています。院外研修は主に WEB 形式で行われる研修会への参加となりましたが、神奈川県病院薬剤師会主催の研修会や、日本医療薬学会など薬学系学術大会に積極的に参加しました。

[実習生受入れ]

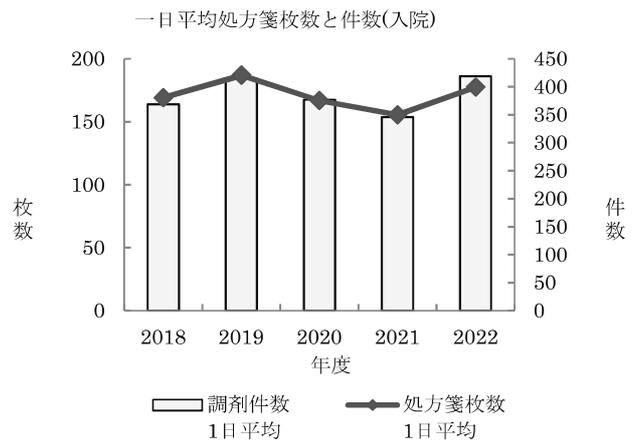
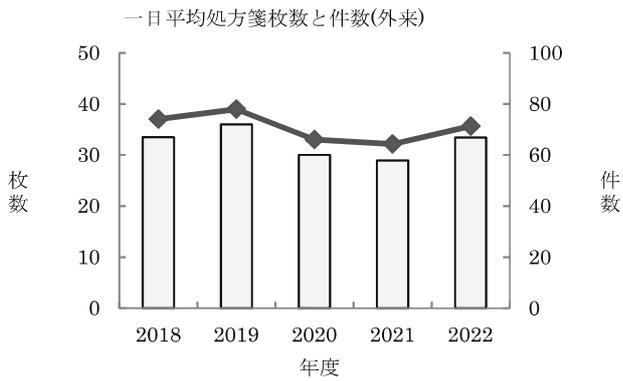
薬学部 5 年生を対象に、2010 年度から 11 週間の長期実務実習を行っています。2022 年度は、慶應義塾大学と横浜薬科大学より 3 名の学生を受け入れました。

(文責 副薬剤部長 小林 岳)

(1) 調剤業務 (内用・外用薬)

2022 年度 処方箋枚数と調剤件数

区分			外 来			入 院				
月別	処方箋枚数	一日平均	調剤件数	一日平均	日数	処方箋枚数	一日平均	調剤件数	一日平均	日数
4月	680	34	1,256	63	20	4,724	157	10,725	358	30
5月	632	33	1,099	58	19	4,942	159	10,766	347	31
6月	677	31	1,245	57	22	5,130	171	11,987	400	30
7月	880	44	1,662	83	20	5,558	179	13,540	437	31
8月	879	40	1,713	78	22	6,168	199	14,890	480	31
9月	708	35	1,284	64	20	5,226	174	11,962	399	30
10月	665	33	1,178	59	20	5,216	168	11,942	385	31
11月	672	34	1,326	66	20	5,478	183	12,859	429	30
12月	836	42	1,655	83	20	5,708	184	14,209	458	31
1月	757	40	1,512	80	19	5,368	173	12,918	417	31
2月	620	33	1,109	58	19	5,360	191	13,008	465	28
3月	641	29	1,189	54	22	5,900	190	14,189	458	31
計	8,647		16,228		243	64,778		152,995		365
月平均	721	36	1,352	67		5,398	178	12,750	419	

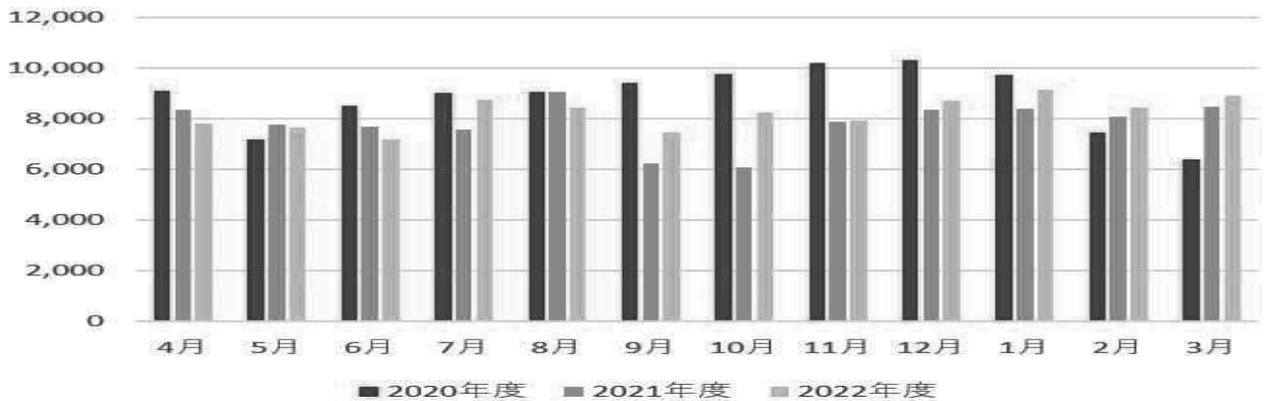


(2) 注射剤調剤業務

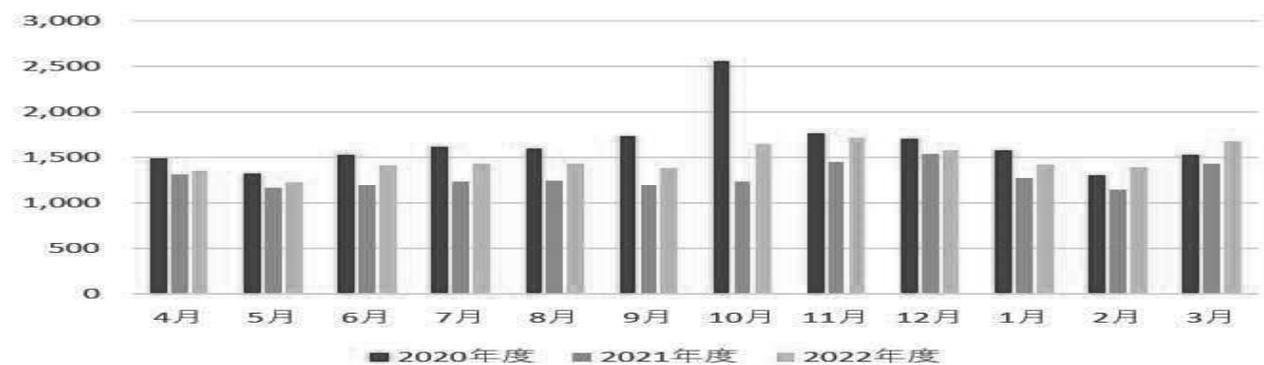
2022年度 注射処方箋枚数

	月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	月平均
	入院	2019年度	9,820	10,951	9,766	11,242	11,225	10,197	10,735	9,898	9,509	10,383	9,305	9,309
	2020年度	9,095	7,159	8,504	8,994	9,070	9,409	9,770	10,195	10,325	9,736	7,460	6,401	8,843
	2021年度	8,342	7,762	7,664	7,570	9,066	6,211	6,087	7,880	8,348	8,390	8,061	8,461	7,820
	2022年度	7,807	7,637	7,161	8,753	8,427	7,427	8,213	7,913	8,706	9,117	8,422	8,904	8,207
外来	2019年度	1,397	1,496	1,537	1,695	1,652	1,538	1,907	2,122	1,939	1,835	1,604	1,663	1,699
	2020年度	1,486	1,323	1,531	1,617	1,599	1,736	2,557	1,767	1,704	1,572	1,303	1,523	1,643
	2021年度	1,309	1,163	1,189	1,235	1,241	1,193	1,232	1,450	1,536	1,268	1,145	1,430	1,283
	2022年度	1,347	1,226	1,408	1,424	1,432	1,380	1,646	1,709	1,579	1,418	1,385	1,671	1,469

入院



外来



(3) 製剤業務

クラス分類	製剤名	規格	数量
【Ⅰ】	アクネローション	30mL/本	95
	20%塩化アルミニウム液	本	0
	鼓膜麻酔液	5ml/本	1
	トリバンブルー0.1%	1ml/本	28
	チオ硫酸ナトリウム軟膏10%	50g/個	0
	90%フェノール液	本	0
	ネオ・ブロー氏液	20ml/本	6
	内視鏡用1%ヨウ素ヨウ化カリウム液	150ml/本	48
	モース氏ペースト	個	19
	モノクロ酢酸	本	2
	0.1%モルヒネゲル(麻薬)	個	0
	SADBEアセトン 2%	mL	5
	SADBEアセトン 1%	mL	100
	SADBEアセトン 0.1%	mL	390
	SADBEアセトン 0.01%	mL	40
	SADBEアセトン 0.001%	mL	40
SADBEアセトン 0.0001%	mL	50	

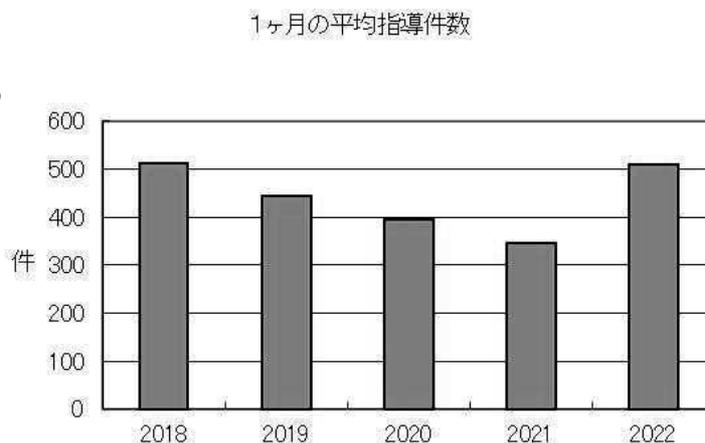
クラス分類	製剤名	規格	数量
【Ⅱ】	アルベカシン点眼	5ml/本	8
	ミカファンギン点眼液0.25%	5ml/本	60
	ポリコナゾール点眼液	5ml/本	24
	クロルヘキシジン点眼液(0.05%)	5ml/本	0
	4%酢酸	500ml/本	120
	チラーヂンS坐剤50 μ g	個	327
	チラーヂンS坐剤100 μ g	個	114
	エスタゾラム坐剤3mg	個	23
	リボトリール坐薬0.5mg	個	1158
リボトリール坐薬1.0mg	個	809	

クラス分類	製剤名	規格	数量
【Ⅲ】	NMD点眼液	3ml/本	300
	3000倍ボスミン液	60ml/本	257
	5000倍ボスミン液	100ml/本	70

(4) 薬剤管理指導業務

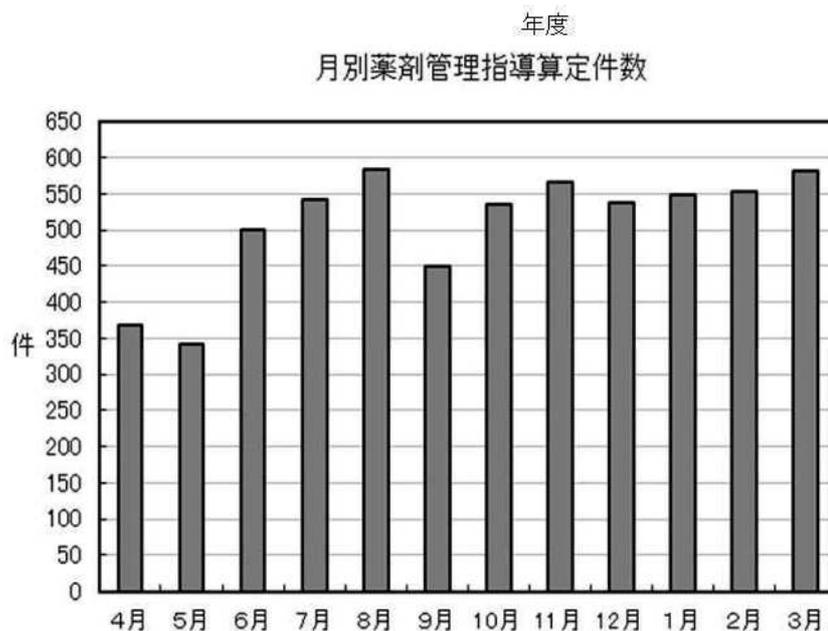
年度別薬剤管理指導算定件数 (平均件数/月)

年度	平均件数/月
2018	512
2019	444
2020	395
2021	312
2022	509



2022 年度月別薬剤管理指導算定件数

	月別件数
4月	368
5月	342
6月	500
7月	542
8月	583
9月	450
10月	535
11月	566
12月	538
1月	549
2月	554
3月	581
合計	6,108



(5) 無菌製剤処理業務

①中心静脈(TPN)混注業務

月	混注件数	稼働日数	1日平均件数
4月	87	20	4.4
5月	106	19	5.6
6月	90	22	4.1
7月	114	20	5.7
8月	126	22	5.7
9月	70	20	3.5
10月	127	20	6.4
11月	95	20	4.8
12月	144	20	7.2
1月	166	19	8.7
2月	83	19	4.4
3月	70	22	3.2
合計	1,278	243	
月平均	107	20	

②抗がん剤混注業務

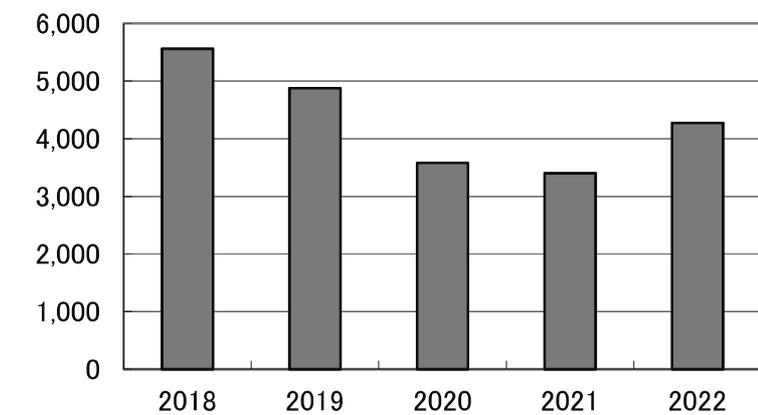
	混注件数						1日平均		稼働日数
	外来		入院		合計		人数	件数	
	人数	件数	人数	件数	人数	件数			
4月	165	201	22	26	187	227	9.4	11.4	20
5月	158	200	20	26	178	226	9.4	11.9	19
6月	184	242	34	44	218	286	9.9	13.0	22
7月	157	202	22	26	179	228	9.0	11.4	20
8月	189	257	12	16	201	273	9.1	12.4	22
9月	170	231	23	29	193	260	9.7	13.0	20
10月	180	243	17	21	197	264	9.9	13.2	20
11月	166	230	24	26	190	256	9.5	12.8	20
12月	148	210	33	41	181	251	9.1	12.6	20
1月	186	266	34	44	220	310	11.6	16.3	19
2月	185	258	46	58	231	316	12.2	16.6	19
3月	243	332	53	66	296	398	13.5	18.1	22
合計	2131	2872	340	423	2471	3295	10.2	13.6	243
月平均	178	239	28	35	206	275			

(6) 持参薬鑑別 年度別総件数

持参薬鑑別 年度別総件数

年度	総件数
2018	5,562
2019	4,880
2020	3,580
2021	3,398
2022	4,273

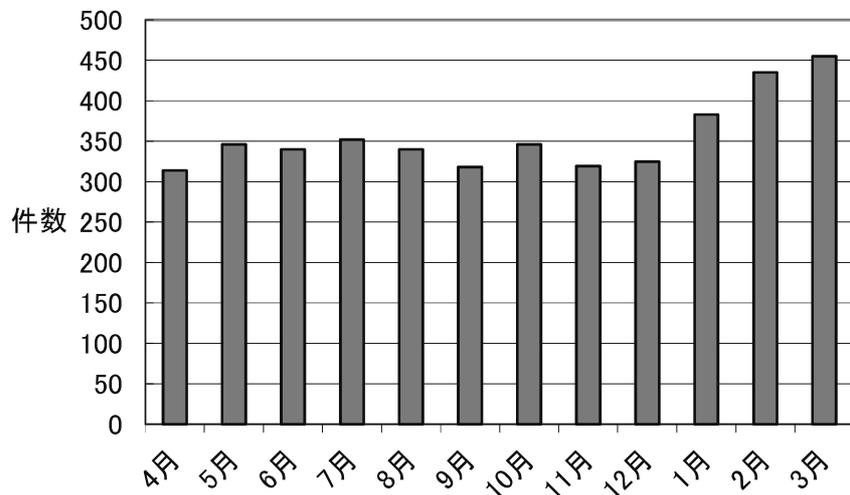
持参薬鑑別 年度別総件数



2022年度 鑑別件数

	件数
4月	314
5月	346
6月	340
7月	352
8月	340
9月	318
10月	346
11月	319
12月	325
1月	383
2月	435
3月	455

2022年度 月別持参薬鑑別件数



(7) 治験・臨床研究 審議案件 (2022年度)

治験	臨床研究	製造販売後調査
0	13	4

(8) 2022年度 休日、夜間勤務状況

(1日平均)

	調剤						請求票 払出 件数	麻薬 受払い 件数	持参薬 鑑別 件数	問合せ 件数	その他 件数
	外来		入院		注射						
	枚数	件数	枚数	件数	枚数	件数					
4月	3.8	6.3	32.1	69.0	38.9	92.0	1.7	7.0	0.0	2.4	0.1
5月	4.0	7.2	31.5	62.5	35.5	86.5	1.2	5.0	0.3	2.8	0.1
6月	3.6	6.1	32.5	72.1	27.4	66.3	1.0	6.0	0.0	3.0	0.2
7月	7.0	12.0	44.0	105.5	36.4	90.8	1.9	5.8	0.1	3.6	0.2
8月	5.1	9.7	43.9	104.0	35.3	80.9	1.2	3.8	0.0	2.5	0.4

9月	4.1	6.7	34.0	78.1	37.3	97.9	1.3	6.8	0.1	2.7	0.1
10月	3.0	5.0	36.5	77.2	35.0	89.1	1.2	4.0	0.0	1.9	0.1
11月	4.0	7.8	67.9	78.3	32.3	74.8	1.2	4.6	0.0	1.6	0.1
12月	6.3	12.9	43.1	104.6	40.3	104.1	1.7	7.8	0.0	1.9	0.2
1月	6.5	13.3	37.0	83.0	39.9	85.7	1.4	7.3	0.2	2.0	0.3
2月	3.3	6.5	38.0	81.0	31.9	77.5	1.3	5.8	0.0	1.6	0.1
3月	3.7	7.0	36.4	76.8	27.0	67.9	1.3	6.1	0.0	1.8	0.1
平均	4.6	8.4	39.7	82.8	34.8	84.5	1.4	5.8	0.1	2.3	0.2
前年度平均	3.6	6.2	33.6	67.7	36.1	80.4	1.4	5.0	0.1	2.6	0.5

11 看護部

(1) 人事・組織

2022年4月1日付けの看護部配置は、341名（定数334名）、7名の増員でスタートしました。その中で新規採用者として、4月に29名の仲間が増えました。また川崎病院から、三好しのぶ師長、渡邊嘉如主任、三鬼静穂副主任、会津あゆみの合計4名が転入してきました。また、篠原悦子が認知症看護認定看護師に合格しました。

昨年度に続き、新型コロナウイルスの対応病院として、新型コロナウイルスの感染状況に合わせ病棟編成や職員配置を行い、他部門と協働しながら進めていきました。職員の感染対策への教育を徹底し、感染のフェーズに合わせ病棟編成を行いながら、7月には、神奈川県からの要請を受け、結核病棟の再開と閉鎖病棟の再開のための職員配置を行いました。

インターンシップや研修会など、新型コロナウイルス感染の影響で中止や延期となるものもありましたが、病院見学会は現地で行うことができ、研修もナーシングスキルを活用するなど工夫し行いました。

(2) 主な行事など

日付	内容
4月	<ul style="list-style-type: none"> ・新人看護師教育研修 新規採用者 27名参加 ・看護師採用試験（1回目） ・病院見学会 現地開催 2回 31名参加
5月	<ul style="list-style-type: none"> ・看護師採用試験（2回目）
6月	<ul style="list-style-type: none"> ・看護師採用試験（3回目） ・新人研修「医療チームを知ろう」
7月	<ul style="list-style-type: none"> ・永年勤続表彰（20年） 荒井絵里 生稲麻紀子 近藤孝子 加藤知子 根木真理子 ・永年勤続表彰（30年） 藤原実香 神山由美子 町田みゆき 大森玲子 ・6西（結核病棟）再開 ・4東病棟一部再開 ・看護師採用試験（4回目）

8月	・医療者向け新型コロナウイルスワクチン接種対応（4回目） ・病院見学会 現地開催 2回 14名参加
9月	
10月	・新人研修「看護師が活躍する他部署の役割を知ろう」
11月	・新人研修「報告する力を磨く」
12月	・係長昇任選考合格 鈴木果里奈 田島弓子 加藤知子 白澤佳代
1月	
2月	・春のインターンシップは新型コロナウイルスで中止 ・病院見学会 現地開催 2回 21名参加 ・事例研究発表会① 13演題 ・医療者向け新型コロナウイルスワクチン接種対応（5回目）
3月	・春のインターンシップは新型コロナウイルスで中止 ・病院見学会 現地開催 2回 31名参加 事例研究発表会③ 2演題

（3）看護師の現状（2022年4月1日現在）

ア．看護職員定数 334名
現在数 341名

項目	看護単位	病床数	看護師	会計年度 職員	夜勤人員		看護 助手
					準夜	深夜	
看護師定数			334				34
看護師現在数(外部配置含む)			341	38			
許可病床数		383					
3階西病棟(救急後方病床)		41	35	1	3	3	1
1階(救急センター)					2	2	
3階東病棟(ICU・CCU)		8	17	0	2	2	1
3階東病棟(手術室)			16	1			1
4階西病棟(地域包括ケア病床)		45	28	1	3	3	7
4階東病棟(内科)		45					
5階西病棟(消化器系)		46	30	3	3	3	5
5階東病棟(循環系・内科)		45	31	3	3	3	4
6階東病棟(呼吸器系・内科)		45	34	2	3	3	5
6階西病棟(結核)		40	20	1	3	3	2
7階西病棟(腎・泌尿器科系)		45	40	3	4	4	4
7階東病棟(透析センター)		21					

緩和ケア病棟 在宅部門	23	24	1	3	3	1
外来		18	20			
副院長(看護部長)室		1				
看護部管理室		3	4			
産休・育休・病休・休職		29				
看護部外配置 医療安全・地域医療・院内感染		14				

イ. 出身校別内訳 (2022年4月1日現在)

看護職員	出身校		大学院	看護大学	看護短期大学	助産学校	専門学校	准看学校
	総数	323	3	64	103	0	150	0
構成比(%)	100%	0.9%	19.8%	32.8%	0	46.5%	0	

ウ. 採用・退職・転入・転出状況 (2021年度)

		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	総数
現在数		341	341	341	338	338	336	336	333	332	329	328	328	
増	採用	22												22
	転入	5												5
減	退職			3		2		3	1	3	1		32	45
	転出	5												5

エ. 年齢別 (2022年4月1日現在)

平均年齢：看護師 35.68歳 准看護師 なし 総平均年齢 35.68歳

年齢	計	看護師	准看護師	年齢	計	看護師	准看護師
20歳			0	30歳	8	8	0
21歳	12	12	0	31～35歳	34	34	0
22歳	20	20	0	36～40歳	30	30	0
23歳	18	18	0	41～45歳	42	42	0
24歳	26	26	0	46～50歳	36	36	0
25歳	19	19	0	51～55歳	30	30	0
26歳	16	16	0	56～60歳	23	23	0
27歳	11	11	0	合計	341	341	0
28歳	13	13	0				
29歳	13	13	0				

オ. 勤務年数（2022年4月1日現在）

平均勤続年数：看護師 総平均勤続年数 11.3年

勤務年数	計	看護師	准看護師	年齢	計	看護師	准看護師
1年未満	29	29	0	10年	7	7	0
1年	17	17	0	11～15年	40	40	0
2年	31	31	0	16～20年	32	32	0
3年	22	22	0	21～25年	21	21	0
4年	18	18	0	26～30年	28	28	0
5年	16	16	0	31年～	22	22	0
6年	13	13	0				
7年	14	14	0				
8年	16	16	0	合計	341	341	0
9年	16	16	0				

（文責 看護部副看護部長 篠山 薫）

師長会

2022年度師長会は、看護部の理念・基本方針に基づき、より良い看護サービスの提供を目指して病院・看護部の置かれている現状を組織診断し、以下の重点課題に対し目標を立案し活動しました。

重点課題

1. 経営健全化の推進
2. 看護の質及び患者サービスの向上
3. チーム医療の推進
4. 働きやすい職場環境の創造
5. 新型コロナウイルス感染症と災害対策への重点的な取り組みの推進

重点課題1については、急性期入院基本料1、25対1急性期看護補助加算（5割以上）また、地域包括ケア病床加算における看護必要度8%以上、在宅復帰率72.5%以上、院内転床率60%以下を維持する等の施設基準を満たすことができました。さらに、各部署において、物品の定数やSPDシール紛失数の定期的な調査を実施し、適正な物品管理に努めました。

重点課題2については、人材育成計画に基づき個々が役割を発揮できる人材育成のために新人支援は副主任会、リーダー育成は主任会と連動し研修を実施しました。事例研究については13演題の発表を行い、看護研究については、2演題の発表を行いました。また、3年目看護師対象に、院内留学を実施し、知見を広める一助となりました。記録の充実のために、スタンダードケアプラン、ケアバンドル（認知、せん妄、転倒転落、褥瘡、誤嚥、COVID-19）の運用、さらにモデル記録を作成できました。また、与薬マニュアル「内服・注射」マニュアルの理解を深め、全部署において直接配薬に変更し、与薬行動への意識向上に努めました。

重点課題3については、入退院支援の充実を図るため、地域医療部と共に、事例検討を14事例実施しました。また、他職種に対する理解を深めるために、新人研修として他職種・他部署へのシャドウイングを実施しました。